

		検査項目	検査項目の意味
5	尿検査	比重	尿の濃縮や希釈をみます。
		PH	尿の酸性、アルカリ性をみます。腎盂炎や膀胱炎でアルカリ性を示します。
		蛋白	腎炎、ネフローゼ、糖尿病性腎症、その他泌尿器系疾患に有用な検査です。
		潜血	尿に血液が混じってるかをみます。結石、がん、膀胱炎のときに反応します。
		白血球	尿に白血球が混じってるかをみます。白血球は炎症のサインです。
		亜硝酸塩	細菌による尿路感染症をチェックします。
		外体	高熱・飢餓・下痢・嘔吐・激しい運動で陽性となります。
		ウビリノーゲン ビリルビン	肝臓・胆道系に異常が無いか調べます。
6	腎機能・電解質	沈 渣	赤血球 白血球 上皮細胞 硝子円柱 細菌 コメント 尿を遠心分離器にかけたときに沈殿してくる赤血球や白血球、細胞、結晶成分などの固形成分を検査します。 固型成分の数の増加や有無を調べて、腎臓などの異常を判断します。 健康な人でも、赤血球やその他の固形成分がごくわずかは見られます。 蛋白の検査とともに腎臓、尿管、尿道、前立腺などの疾患の発見に有用です。
		尿素窒素	尿素窒素は蛋白質終末代謝産物で、腎臓から排出されます。このため腎臓の働きが悪くなると高値になりますが、それ以外に蛋白質の取りすぎ、脱水、消化管出血等でも高値になります。
		クレアチニン	クレアチニンとは、体内で利用された老廃物の一つで、筋肉の活用により使われ分解されたものです。腎臓の過能力を測る指標になります。
		e G F R	腎臓が1分間にどれくらい尿を作ることができるかの指標です。早期に腎臓障害を予測するために有用です。
		尿酸	動物性蛋白や、脂肪の取り過ぎ、腎疾患等で高値になります。痛風、尿路結石、腎疾患、動脈硬化の原因になります。
		ナトリウム	脱水など体内水分バランスが悪くなると上下します。
		カリウム	脱水など体内水分バランスが悪くなると上下します。カリウムは神経の興奮、心筋の働きをサポートします。
クロール	脱水など体内水分バランスが悪くなると上下します。ナトリウムとの濃度バランスが重要です。		

7	肝・胆機能	A S T (G O T) A L T (G P T)	肝細胞中に含まれる酵素で、肝細胞が急性・慢性に障害されると血中に放出されて高値になります。時に A S T は心筋梗塞で上昇します。
		A L P	主に胆道から放出されます。肝胆道系疾患・骨疾患・甲状腺疾患で高値になります。
		- G T P	アルコール性肝障害で上昇します。胆石などによる胆汁うっ滞・慢性肝炎・肝がんでも上昇します。
		総蛋白	タンパク質は、大部分が肝細胞で合成されます。そのため、肝機能低下時には総タンパク質は低下します。栄養状態や、肝機能や腎機能の病状がわかります。
		アルブミン	肝臓で生合成されることから、肝機能の状態を診断するための指標となります。アルブミンの低下は、肝臓障害や栄養失調などを疑う事ができます。
		総ビリルビン	総ビリルビンは、黄疸の原因や種類を見分けるのに有効です。急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝がんなどで高値になります。
	膵機能	血清 アミラーゼ	食物として摂取したデンプンを消化する酵素で、主に膵臓と唾液腺で作られています。膵炎や耳下腺炎で高値になります。